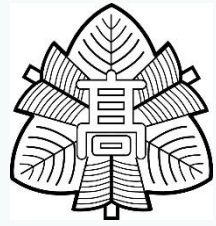


# 広島県立安古市高等学校

校長 船津 久美



# 広島県立安古市高等学校



- ・昭和50年に、広島市北西部の高台に全日制普通科高校として開校。
- ・各学年8クラスで約950名の生徒が在籍し、「頑張ることがかっこいい」を合言葉に、ほとんどの生徒が希望大学への進学をめざし、学習・部活動・学校行事・地域活動などに打ち込む。
- ・職員は、本務者63名、非常勤講師等13名。
- ・平成26年12月10日にユネスコスクールとして認定され、地球規模の諸問題を知り、その解決に向けて取り組めるよう、総合的な学習（探究）の時間を中心に探究活動を行い、各教科で「知識・技能を活用する力」と「他者と協働する力」を育成している。

## *Our Mission*

校訓「仰高（ぎょうこう）」（心豊かな人生の創造をめざし  
高遠の理想を仰ぐ）の精神のもと、広島を愛しこれからの社会に貢献できるリーダーを育成する。



# ガイドについて

## 【活用例】

- 職員研修でワークショップの形で、ソリューションツリーをカリキュラム・マネジメントの一環として実施した。

## 【コメント】

- 本校の様々な教育活動をつなげるために実施して、答えが出たわけではないが、職員全体で本校の何が大事でそれを意識化することは共有できたと思う。

## 【改善点】

- 活用の仕方における改善点であるが、振り返りの時間を多く取った方がよいと思った。それぞれがワークショップで実施したことをお互い質問し合ったり意見を言い合ったりすることで、自然と納得解や最善解に近づいたと思える。

# 課題

## 【人 (People)】

- 人に関する課題: 学校全体のシステム化が進み, 教育活動の意義や趣旨の理解をせずに, 例年踏襲という画一的な取組が見られたり, 生徒が自分で考えずに学校の言うとおりにしておけばよいと考えてしまう場面が見られたりする。

## 【過程(Process)】

- 過程に関する課題: 校務運営会議 (管理職と主任との会議), 学年, 教科, 分掌とそれぞれ週 1 回会議を行い, 月 1 回職員会議を行っているが, 情報伝達機能にとどまり, 検討したり議論したりすることに至っていない場合がある。

## 【場所(Place)】

- 場所に関する課題: 校内にある掲示板に「ワクワク, ドキドキ」するような情報が発信できていない。

# Happy Schools デザインシート

## 【生徒】

1年間の学びを自ら計画する。

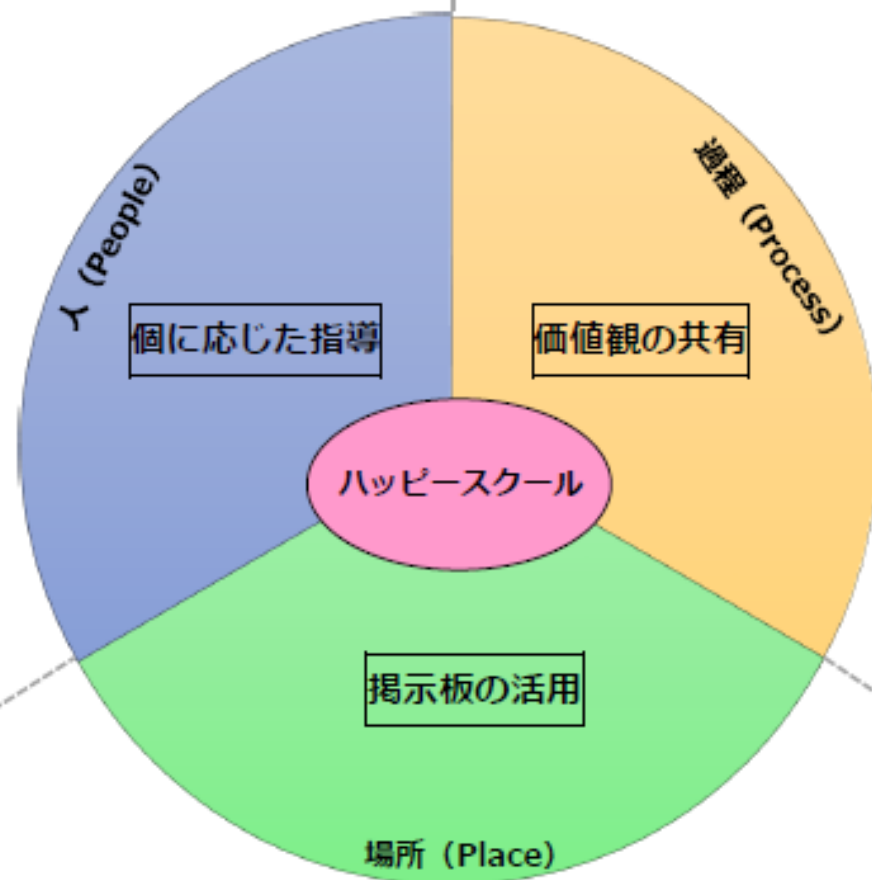
## 【教員】

そのサポートのための計画を立てる。

## 【教員】

育てたい生徒像を共有する。

「校長便り」を発行する。



【生徒】「頑張ることがかっこいい」という合言葉を『自分ごと』にしたメッセージカードを作成する。

# 活動（人：People）

活動名：不登校生徒支援委員会

期間：平成31年4月～令和2年3月

活動内容：週1回会議（教育相談担当者2名，生徒指導主事，教頭，校長）を開催し，長期欠席(10日以上)の欠席)生徒の状況を把握する。3日連続欠席の生徒に対して養護教諭による面談，10日欠席の生徒・保護者へスクールカウンセラーとの面談の紹介，生徒・保護者と学校との今後の進路面談などを実施。

活動による変化：担任を中心に行っていた生徒・保護者対応を不登校生徒支援委員会を設置しサポートすることで，生徒自身が自分のことについてどうしたいのかを保護者や学校に伝えることができるようになり，保護者もまた，生徒の幸せについてどうサポートすることが良いのかを考え行動されるようになった。その結果，生徒・保護者・担任の不安感が減り，生徒一人ひとりの幸せの在り方について十分に話し合い，休学・不登校の生徒の数も減った。

直面した課題：長期欠席という現象に現れないと，自分の思いを大人に伝えられない生徒がいること。

# 活動（過程：Process）

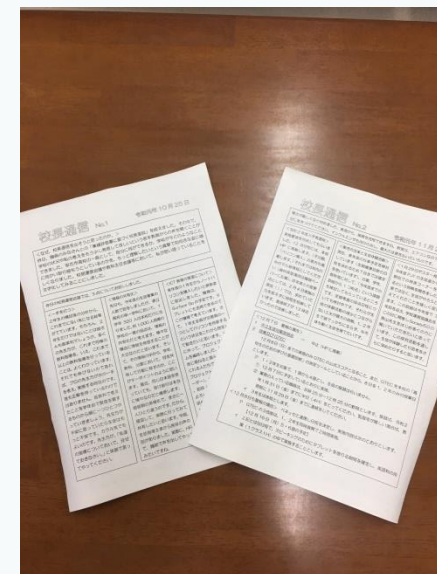
活動名：「校長通信」発行

期間：令和元年10月～令和2年3月

活動内容：本校の取組の状況，課題とその解決に向けて，今後挑戦したいこと等を「校長通信」（A4版1枚）を通じて，話し言葉だけでなく文字情報として全職員へ発信している。

活動による変化：校長から直接伝えられる時間が限られている（月1回の職員会議）ため，校長通信を通じて情報共有がより図れ，職員が学校の方針等を把握し，疑問や意見等を交換しやすい。

直面した課題：チャット等を通して若手教員のアイデアも職員全体で共有したい。



# 活動（過程：Process）

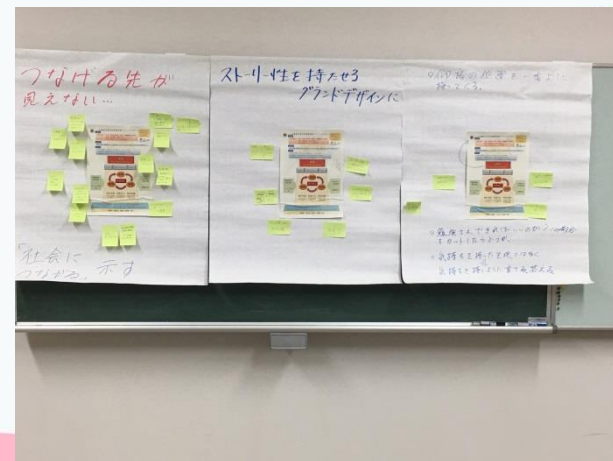
活動名：ワークショップ研修

期間：令和元年7月～令和2年3月(毎月1回程度)

活動内容：職員会議後に短時間（30分程度）でワークショップを開催。9月のワークショップ研修では、本校のグランドデザイン（案）を各グループ（6名程度）で話し合い、その話し合いを発表し、全職員で共有した。

活動による変化：本校の教育目標，方針，具体的な取組等について改めて共有するとともに，それぞれの職員の考え方を知ることができるとともに，自分の取組の学校目標に照らした振り返りができた。

直面した課題：職員同士の共有化がきわめてゆっくりであるが進んでいると感じるので特に課題はない。もう少し頻度を上げて取り組むことでさらに共有化が進むと考えられる。





# 活動（場所：Place）

活動名：「自分にあてたメッセージ」

期間：令和元年7月～令和2年2月

活動内容：進路が決まった3月の自分の姿に対して、自分で自分を褒めるメッセージカードを作成し、教室内の掲示板上に貼り、クラスみんなで共有する。名前は書いてもよいし書かなくてもよいと生徒達で決める。

活動による変化：3月に褒め言葉を一杯自分にかかけたいので、それに向けてしっかり頑張るという意欲を高めるとともに、クラスで困難な道のりを一緒に乗り越えたいと始業前、終業後等もクラスで勉強に励む姿が見られる。

直面した課題：課題ではないが、この姿を1, 2年生にも知らせてやりたい。



# 活動（場所：Place）

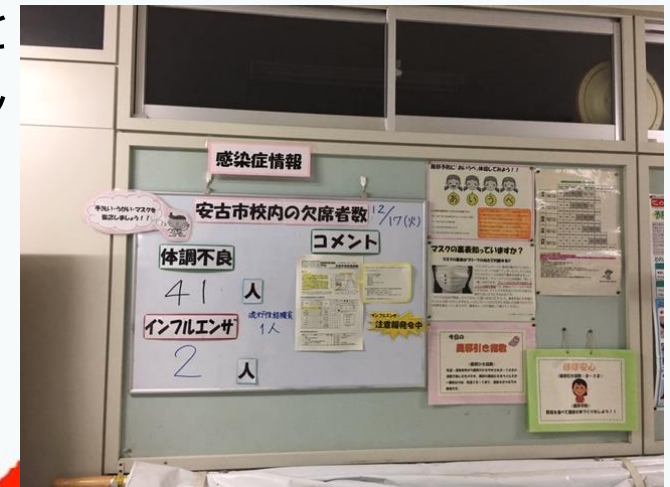
活動名：保健掲示

期間：令和元年6月～令和2年3月

活動内容：保健委員は、熱中症対策に始まり、インフルエンザ等の体調不良の状況を学校全体に発信する役割を保健室前の掲示板を使って発信した。

活動による変化：職員が生徒へ注意喚起を促すことも必要であるが、同じ生徒同士で学校全体の状況や注意する点を発信することで、より身近なアドバイスとして素直に受け止めることができ、発信された情報を積極的にみる生徒が増え、学校生活をより自分事として受け止める生徒が増えたように思う。

直面した課題：特になし。



# 活動（場所：Place）

活動名：図書展示

期間：令和元年7月～令和2年3月

活動内容：図書委員によるお薦め図書コーナーを設置している。それぞれの図書委員がテーマを持って本の説明をつけるなどの展示を行っている。

活動による変化： 図書委員自身が自分のお薦めを発表できる場を持てることで大きな自信になっている。また、それをみる生徒にとっては、同じ学校の生徒からのお薦めなので親近感がわき、工夫を凝らした展示の仕方にも読むきっかけとなっている。

直面した課題： 特になし。



# 活動（場所：Place）

活動名：姉妹校短期留学報告展示

期間：令和元年9月～令和2年3月

活動内容：今年度夏季休暇にオーストラリアの姉妹校に短期留学した生徒が、学年会や中学生対象説明会で報告するとともに、写真や体験内容を英語で書いて展示した。

活動による変化：体験した生徒が振り返る貴重な機会であるとともに、校内の生徒及び職員・保護者が生の情報を見ることができるよう多くの生徒よく見ている。生の国際交流の資源となっている。

直面した課題：特になし。



# 活動（場所：Place）

活動名：ワクワク・ドキドキ掲示板

期間：令和元年7月～令和2年3月

活動内容：職員による生徒がワクワク・ドキドキするような活動報告や考えてほしいことやメッセージを掲示している。

活動による変化：校内全体で考えることが見える化されることで一体感が醸成された。

直面した課題：もっと頻繁に生徒の活動等を発表する場としたい。

